

かずさの博物誌

キセキレイ

～胸があざやかな黄色～

文・写真／成田篤彦

2013.7.20

一昨年の初夏、小櫃川支流の七曲川を訪れた。

この支流は名の通り、山間部を複雑に曲がりくねった細く長い小川だ。

川岸に沿って狭い水田がつくられ、集落が台地や丘陵地の斜面の森に埋もれるように散在している。

「チュツ、チュツチュツ、チュツチュツチュツチュツ」とキセキレイのさえずりが聞こえた。

驚いたことに、屋根の上に立てられたアンテナで雄が錐のように鋭いくちばしを精いっぱい広げてさえずっていた。

頭とのがが黒色、胸や腹があざやかな黄色だ。この黄色が上品で美しい。

その後、かわら屋根の上に移動してさえずっていた。

©成田篤彦



▲キセキレイの雄

アンテナの先でさえずる

＝2011年5月9日 木更津市

かわら屋根で鳴く▶

キセキレイの雄

＝2011年5月9日

木更津市



©成田篤彦

きっとこの近くで子育てするに違いない。

それにしても丘陵地のコナラの若葉に埋もれた屋根でキセキレイがさえずる光景には、上総の初夏のさわやかな空気が充滿していた。

キセキレイは上総地方では秋から冬に平地の河川や堰や水路や公園などの水辺で、毎年、見かける。初夏と違って、冬の羽色は目立たない薄い黄色だが、それでもこの小鳥をみかけると温かみを感じる。

しかし、春になるといつのまにか平地では姿を消してしまう。

夏は奥深い丘陵地の溪谷内では雄がさえずっていたり、雌と雄が一緒に水辺で飛ぶ水生昆虫を捕える姿をよく見かける。

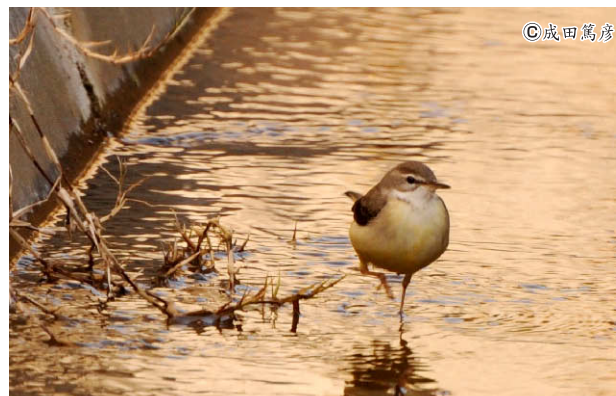
市街地の平地では、繁殖期（春～夏）、虫などのえさが少なくヒナを育てられないので、えさの豊富な丘陵地の溪谷に戻っていくのであろうかと思っていた。

ところが、今年の初夏に木更津市の郊外の水田が湧き出る水田でえさをとる二羽の成鳥を見た。上総では少し郊



©成田篤彦

▲湧水のでる水田でえさを探すキセキレイ＝2013年6月2日 木更津市



©成田篤彦

▲冬羽のキセキレイ 用水路でえさを捕る
＝2010年1月15日 木更津市

外に入れば、彼らが繁殖できる豊富なえさがある水辺がまだ残っているのかもしれない。

キセキレイはもともと数が少なく日本の各地で減少しているだけに、この小鳥が繁殖できる身近な自然を大切にしたいものだ。

memo

キセキレイ(スズメ目セキレイ科)

千葉県指定重要保護生物。主に河川の中流域から上流域に生息する。岩の間や崖の窪み・建造物のすき間などに営巣する。

ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯とアフリカ大陸の北部及びサハラ砂漠以南で繁殖する。

日本では各地で数が減少している。県内では房総半島南部の山地溪流に生息する。産卵期は四～八月。

参考文献

千葉県2011千葉県の保護上重要な野生生物改訂版 千葉県レッドデータブック動物編